

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅡB(SeminarⅡB)		授業コード	E002516
担当教員名	松下 乾次		科目ナンバリングコード	E21202
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	とくになし。			
受講心得	出席し、積極的に発言する。			
教科書	岩田規久男『日本経済を学ぶ』			
参考文献及び指定図書	授業で指示します。			
関連科目	広く、現代社会の問題を取り扱っている科目を履修してください。			

授業の目的	企業・組織の社会的責任を学習します。ゼミナールⅡBでは、ⅠAに続いて戦後経済史の学習を通して、産業政策、そこでの企業と政府の行動を見ていきます。とくに、日本企業の役割と課題を見ていきます。また、ⅠAに続いて、学習の習慣をつけてもらうため、ツール(とくに、読む、書く、話す)の習得もゼミナールの課題とします。
授業の概要	戦後日本経済史を引き続き学習します。ⅡBでは、戦後の産業政策と規制緩和、構造改革そして現在の金融・経済の現状を見ていきます。現代企業の活動の背景にある、社会、経済、金融がどのような状況にあるのかを学習します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：ガイダンス。ゼミナールの課題について</b> ゼミナールの課題を確認し、各自の学修目標を設定し、履修・就職についても考えてもらいます。	学修計画・自己評価を提出。
<b>第2週：ゼミナールⅡAで学習した課題を復習(確認)</b> 前期提出レポートの講評。バブル経済までの復習。	ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第3週：ゼミナールⅡAで学習した課題を復習(確認)</b> バブル経済崩壊の過程、要因を見る。	ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第4週：教科書第5章 1. 戦後の産業政策はどのように機能したか。</b> 戦後の産業政策は、高度経済成長期において機能したか。以降、担当発表者が内容をまとめて報告、それを受けて議論する。	ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第5週：教科書第5章 2. 規制改革への転換</b>	ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第6週：教科書第5章 2. 規制改革への転換</b>	ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第7週：教科書第6章「構造改革と少子・高齢化」</b> 特殊法人改革	ゼミナールの内容をノートに整理する。

第8週：教科書第6章「構造改革と少子・高齢化」 郵政民営化		ゼミナールの内容をノートに整理する。
第9週：教科書第6章「構造改革と少子・高齢化」 郵政民営化、電力自由化。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
第10週：教科書第6章「構造改革と少子・高齢化」 財政構造改革		ゼミナールの内容をノートに整理する。
第11週：教科書第6章「構造改革と少子・高齢化」 地方財政、地方創生。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
第12週：2015年の出来事 2016年の年間行事・時事問題解説		ゼミナールの内容をノートに整理する。
第13週：教科書第6章「構造改革と少子・高齢化」 年金改革・税制改革		ゼミナールの内容をノートに整理する。
第14週：教科書第7章「日本経済の課題と経済政策」 構造改革は、長期不況脱却に役だったか。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
第15週：教科書第7章「日本経済の課題と経済政策」 デフレ脱却の方策は。 個人面談：半年間の自己評価を提出。レポート提出（「政策は経済成長に有効か」）。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	日本の経済・金融がどういう状況にあるか、強い関心を持つ。
【知識・理解】	日本の戦後の経済・金融について考えるために、基本的な知識を持つ。
【技能・表現・コミュニケーション】	日本の戦後の経済・金融について、主要な論点を整理してまとめる。
【思考・判断・創造】	日本の戦後の経済・金融について、自分の意見を持つ。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	10点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点	10点	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	10点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		10点	10点	
<p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を楽しみ、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	